

労ペン・日本労働遺産・申請書

申請番号 1

(作成：労働遺産認定PT)

申請の対象	
<p>○登録内容：川崎・三菱大争議など大正時代の関西労働運動の記録 ～労組機関紙「労働者新聞」、小説「死線を越えて」、賀川豊彦生誕100年記念碑を含む</p> <p>○認定対象</p> <p>① 活動記録 友愛会関西労働同盟会機関紙「労働者新聞」（所蔵：大原社会問題研究所等） ② 活動記録 神戸川崎・三菱大争議の実写フィルム（所蔵：大原社会問題研究所） ③ 歴史的文献：「死線を越えて」（草稿・賀川豊彦著）（所蔵：賀川豊彦記念松沢資料館） ④ 記念碑 賀川豊彦生誕100年記念碑（管理：賀川記念館）</p> <p>○認定要件 労働遺産としての組織や活動、記念碑、歴史的な文書類等</p> <p>○認定対象の所有者・所蔵者等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大原社会問題研究所：東京都町田市相原町4342 所長・鈴木玲氏 ・賀川豊彦記念松沢資料館：東京都世田谷区上北沢3-8-19 館長・黒川知文氏 ・賀川記念館：神戸市中央区吾妻通り5-2-20 館長・馬場一郎氏 	
申請の趣旨	
<ul style="list-style-type: none"> ・賀川豊彦と同志は、大正・昭和初期時代の厳しい社会環境のなかで、底辺に置かれた労働者やスラムの人々への献身的な活動を続け、日本と世界の労働・社会運動において高い評価がある。 ・賀川は大正時代に神戸、関西そして全国の労働運動を指導し、運動と思想の両面で日本の労働運動の礎を築いた。本人執筆による神戸時代の労組機関誌「労働者新聞」がその活動を伝える。 ・賀川が1921年（大正10）に指導した神戸の川崎・三菱造船所争議では約3万人が結集し、戦前の最大の争議となった。争議自体は労働側の敗北に終わるが、その後の労使関係の改善や労働法政策の論議を促進した。また、スラムに居住して救貧活動を行い、生活協同組合、農民運動の推進者としても知られる。関東大震災（1923年）では東京に駆けつけ被災者支援を指揮した。 ・運動に関する著作をすすめ、「死線を越えて」は昭和前期までに400万部以上を売上げベストセラーとなった。その印税は労働学校などの活動に寄付され、労働者教育に貢献した。賀川はノーベル文学賞、平和賞の候補者となった。 ・賀川豊彦の生誕100周年にあたり、1989年4月に神戸に記念碑が建設された。賀川直筆の「死線を越えて我は行く 豊彦」の銘があり、労働運動への貢献が明記されている。 	
申請内容の現地確認の概要	
<p>労働遺産PTのメンバーは、賀川豊彦の業績と足跡について、東京の松沢資料館、神戸の記念館、東京の大原社研、大阪のエルライブラリー、（鳴門の記念館）、などを訪問し、調査とヒアリングを行うとともに、上記の労働遺産候補についての、現地確認を行った。</p>	
申請対象の現況（アクセス情報等）	<p>①「労働者新聞」（原版）大原社会問題研究所に事前申込みで閲覧可。 ②「神戸造船争議フィルム」（実写フィルム、デジタル版）同上 ③「記念碑」賀川記念館の近くで公開されている（自由にアクセス可）。 ④「死線を越えて」（草稿、初年度版）松沢資料館への申込みにより閲覧可。 ※アクセス等の詳細は添付の参考資料を参照のこと</p>
労使、行政、市民の評価	<p>日本を代表する労働運動家、社会運動家として労使団体、消費者団体等から高い評価がある。ノーベル賞の候補でもあり、ゆかりのある各地でも顕彰されている。</p>
備考	